

地域で活動する診療看護師として
特定行為を行う看護師の役割
(与那国島診療所支援を通じての報告)

2018年9月8日
NDC研修センター
診療看護師 筑井菜々子

About 与那国島

東京からの距離は2000kmを超え、日本最西端にある離島
一番近くにある陸地は台湾であり、天気の良い日は台湾が見えること
もある。

人口1800人、自衛隊が入り300名近く島民が増えた。若い家族、子供
も多い





与那国町診療所

期間:2018年6月4日から30日まで(3日間はNDC進士さんのフォロー)

対象患者:乳児から超高齢者、妊産婦を含む

職員:医師1名(総合内科医)、看護師3名(地元2名、大阪1名)、事務2名

診療看護師としての役割

□外来診療の補助

□救急患者の診察の補助



【内容】

□平日勤務の診察患者数

計112名診察/全体数の約1/3→医師が2/3診察

□夜間、休日呼び出し

1ヶ月で15名程度(週末は全て呼びだしあり)

□患者背景

慢性疾患の定期受診

初診外来

救急患者の初期対応(医師が他の患者診察時)

□紹介状の作成



海上保安庁のヘリコプターが飛行場に到着。昼夜問わずヘリコプターは飛んできて、離島医療を守ってくれる。過去2名、空の上での分娩あり…

島には救急隊、消防士はいないため、島の役場の方々がその役割を果たしている。診療所の搬送車。



診察患者の詳細

□定期受診

→高血圧、糖尿病、脂質異常症、COPD、脳梗塞後、心筋梗塞後
慢性腎不全などの定期受診、定期処方

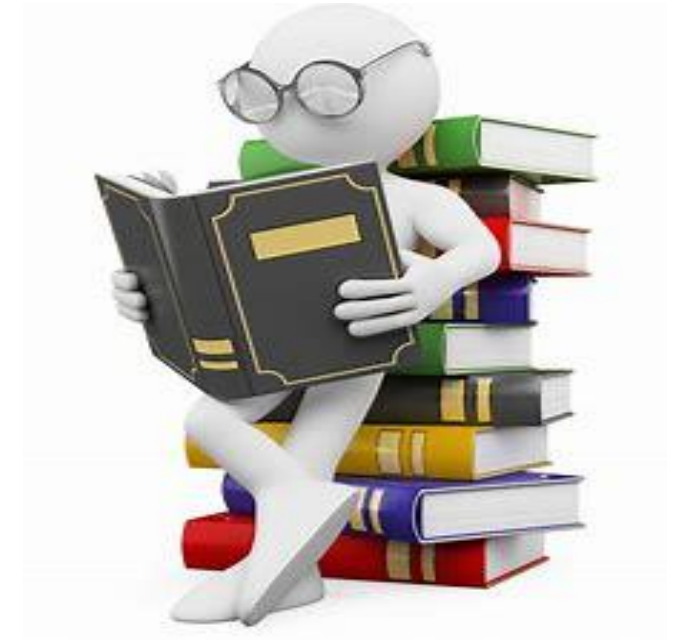
□初診外来

→発熱、咳嗽、咽頭痛、頭痛、発赤疹、嘔吐、腹痛、心窩部痛、耳痛、
切創、腰痛、肩痛、膝痛、眼瞼結膜充血、めまい、便秘、頻脈
動物外傷、珊瑚切創



必要とされる知識

- 基本的な小児科知識
(小児の成長、小児特有の感染症、予防接種、薬の内容・量)
- Common Diseaseの知識
- 見逃してはいけない疾患の知識
- 外傷の知識
- 整形外科の基本的な知識
- 緊急搬送の手順



必要とされる手技

- POCUS
- FAST
- 縫合
- 乳幼児の末梢血管確保
- 耳の診察（耳鏡の使い方）
- 身体所見を正確に取る
- レントゲン撮影
- CT撮影
- グラム染色
- 運転免許（空港まで患者さんを乗せて運転することもある）



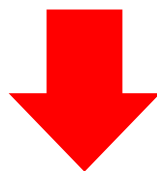
地域のジェネラルNP・特定ケア看護師として学ぶべき姿勢

- 身体所見がしっかり取れる能力を身につける（視診、聴診、打診）
- Common Diseaseを幅広く70%は理解できる能力を身につける
- 小児科、救急外来、整形外科の研修を行う。（欲を言えば産婦人科も）
- その土地の文化・ルールを学ぶ。地元の方と仲良くなる
- 柔軟性を持って仕事を行う（郷に入れば郷に従う）
- 常に謙虚であること（学ばせて頂いている）



地域のジェネラルNP・特定ケア看護師として期待されること

- ・医師が少ない地域で、医師、看護師と共に医療を提供できる
- ・医療格差、医療過疎の穴埋めが出来る
- ・新しい看護師の働き方を表現しやすい場所



地域特定ケア看護師プログラムが必要
(General・Family特定ケア看護師の発想)

与那国町診療所の経験

- ①胸部痛があった80代女性、最終便の飛行機に乗るために、飛行場で診察もし、緊急性が高ければ、その場で海上保安庁のヘリコプター要請を検討
- ②28週妊婦さんの発熱。医師も東京から派遣された外科医にて対応に困った
- ③泣きじゃくる幼児の咽頭部、耳鏡の診察ができなくて困った
- ④患者さんが裸足で診察室に入ってくるので当初は驚いた
- ⑤ムカデ咬傷、珊瑚切創、馬にけられるなどの普段経験しない外傷時の対応の知識がなく困った
- ⑥私自身もダニの攻撃にあった
- ⑦与那国島時間があり、1日のペースが異なった
- ⑧船が出ないと物がなくなる



最後に・・・

離島医療を通じて、今までまったく経験しなかった疾患や病態を学ぶことが出来たこと、診療のあとにスクラブのまま夜の海に入って、そのまま家に帰るなんていう素晴らしい経験をさせて下さったことに心から感謝いたします。

NDC研修センターの皆さんも是非、チャンスがあればこの地域医療に携わる醍醐味を味わってください。

